

きづ(ず)く

八月上旬、私たちは二日間東京に行ってきました。とは言っても、遊びに行ってきたわけではありません。「一期一会」というスローガンの下での企業、大学訪問・東大見学が目的です。遊びたい気持ちは山々ではありませんでしたが、それ以上に有意義で貴重な経験を得ることができた満足感で今は胸がいっぱいです。

まず、私は三菱商事に伺わせて頂きました。社員であっても本社に入らずに定年を迎えられる方が殆どだと予め先生から伺っていたので、期待と共にプレッシャーを感じておりました。こちらでは、三菱商事の概要を出前授業形式でご教授頂きました。名前はよく聞けど具体的には何をしているのか知らなかった私の想像以上に三菱商事は幅広く活躍していました。海外との貿易だけでなく、地球環境や国内、海外のインフラ整備にも一役買っている一方で、ケンタッキー・フライド・チキンやローソンなどの様々な身近なお店、お寿司のサーモンまでも携わっていて驚きました。また、社員の方々との座談会の席も設けて頂き、社員の方々の学生時代のお話や現在も将来においても大切にしてほしい日本人ならではの特徴、社会がグローバル化していくことに伴って高校生のうちに学んでおいてほしいこと等についてアドバイスを頂きました。日本人の仕事の特徴である安全・確実・清潔・規律・礼節の頭文字をとったアカセキレイという合言葉が特に印象的でした。ちなみに、海外には商社はあるけれども、日本の大手五商社のような総合商社はないそうです。というのも、日本人は外国の人に比べて他人との協力が得意で、外国の人が真似しようとして立ち上げた総合商社は数年で消滅してしまうそうです。せっかく日本人として生まれたということで、この日本人固有とも言える能力を大切にしてほしいとお言葉をいただきました。ご自分のお仕事のことについてお話しになるときの社員の方々の表情はとても誇らしげで、私も将来、自分の仕事に誇りを持って働ける社会人になりたいと思いました。

次に、班行動に分かれ、私の班はゆうメンタルクリニックを訪問させて頂きました。クリニックのゆうきゆう先生は漫画と心療内科を結びつけた著作等でネット上でも有名な方で、お目にかかることができて光栄でした。先生は漫画も心理学も小さいころから興味をお持ちだったそうです。小さいころからの目標を達成するというのはなかなか簡単なことではないと思うので、先生にはとても憧れます。心療内科についてのインタビュー以外にも、勉強のお話や自分が悩んだときの対処についてお話を頂きました。先生は反省や悩みは何も生まないとお考えで、反省や悩みは六秒でやめ、次の行動次の行動という風になさるそうです。学ぶべきことが沢山あり、本当に有意義で貴重な時間を頂きました。先生との会話の中や先生とお会いして得た、いくつかのことを紹介したいと思います。まず、先生はずっと笑っていらっしゃいました。こんな風に診察をされたら、患者と医者という距離感を感じることなく、うっかり余計な雑談までしてしまいそうだなと思いました。不安を抱えて病院に来る患者さんはこの笑顔に救われるのではないのでしょうか。「相手の気持ちが分からないような人には医者は無理です！」と親子喧嘩の際に私がよく母に言われる言葉です。そう言えば中学校の先生にも言われました。余計なお世話ですが、確かに一理あるかもしれません。患部を切除することだけが治療ではありません。自分が話を聞くことで患者さんの肩の荷を軽くしてあげるというのも立派な治療です。先生の場合は心療内科が専門というものもあるかも知れませんが、医学部を目指す上でどのような医者になりたいかというのが私なりに少し見えた気がしました。また、先生の仕事部屋の本棚を拝見させていただいたのですが、壁に備えられた本棚にはたくさんの難しそうな本や漫画が置いてありました。本棚は所有者を表すとよく言われますが、先生の本は医学書等と漫画でだいたい九対一位だったと思います。中には先生の著作もありますが、やはり割合的に、できる人は仕事と息抜きのバランスがしっかり取れているのだなと思いました。医学部を志す者として、先生との出逢いで学ぶべきことが多く詰まった実りある時間を頂きました。

班行動終了後には、宿泊先のホテルでのしばらくの休憩と夕食後の東大や一橋大の院生、学生の二高OB・OGをお招きした懇談会が行われました。大学受験の失敗談、成功談や各大学について学生からの視点から先輩から直接伺うことができたので、大変良い刺激となりました。東大、一橋大と聞くと、手の届かない難関大というイメージがありましたが、壁を乗り越えてでも頑張ってみてみたいと思うようなたくさんの魅力を教えていただきました。中学の勉強から高校の勉強に移ったばかりで授業の難しさに焦っていましたが、先輩方のお話でモチベーションを持ち直すことができたと思うので、メリハリをつけた勉強を頑張りたいと思います。

翌日、東大のOCに参加してきました。私は事前申し込みが必要な定員制企画に申し込みが間に合わなかったのが当日参加が可能な企画、展示しか参加できなかったのですが、その分、より多くの学部、学科の見学ができたので結果として良かったのではないかと思います。第一志望の学部は私の中では決めているつもりですが、初めから一本に絞るのではなく興味を持ったいくつかの学部の中から明確な理由を基に私はこの学部を選んだというように視野を広く持たなかったのが、そういう意味でも今回東大のOCに参加できたのは私にとって大きな収穫でした。当たり前のことではありますが、OCで気付いたのは、どの学生の方も自分が興味あることを研究しているということです。好きなことを徹底的に深めて行けるというのは羨ましいことだと思いました。東北大

のOCにも行きましたが、やはり大学そのものの魅力はそこにあるのではないかと思います。

この二日間を通して最も心に残った言葉があります。それは私が伺わせて頂いた訪問先の先生のお言葉です。私たちは医学部志望ということもあり、東大の医学部を卒業なさったということで少しお話を伺ったのですが、先生曰く、「どんな人にとっても高一から高三までの時間は同じで皆同じ時間を与えられているのだからそれほど差が生まれるとは思わないし、皆が勉強してないとは思わないし、自分が一人すごく勉強したとは思わない」そうです。当たり前のことかもしれませんが、確かに時間は平等です。その限られた時間をどう使うかをよく考えるべきだと深く感じました。普段の自分の生活を振り返ってみると、非常にもったいない時間の使い方をしていないのではないかと思います。日々の積み重ねが大事だと気付かされました。

今回の見学会では難関大を目指すとはどういうことかを学ぶだけでなく、普段忘れていた当たり前のことにも改めて気づくことができました。今回の研修で得た人とのつながりを大切にしたいと思います。二日間という短い間の研修でしたが、それ以上に時間をかけて準備されたものです。想像以上に私たちは両親や先生方、社会で活躍されている方々から期待されているのだと肌で感じました。少しでも多くの人々の期待に応えられるように、また、自分のためにも、惜しみない努力をし、新たな自分の可能性を築いていきたいと思います。